

学科等における教員養成に対する理念・目標・教育課程

学部・学科	総合政策学部総合政策学科
校種（免許教科）	中学校教諭一種免許（社会） 高等学校教諭一種免許（公民） 高等学校教諭一種免許（地理歴史）
<p>（１） 学科の理念</p> <p>総合政策学科は、南山大学の建学の理念に基づく「人間の尊厳のために」（Hominis Dignitati）という教育モットーを踏まえつつ、文明論と政策論を中心に修め、政策立案および運用において、幅広い視野と実践力を備えた、リーダーシップを持つ人材を育成する。また、多様化し複雑化する社会に対応できる実学的素養を備えるとともに、確かな歴史観に立って多様な価値観を理解できる能力を持った人材を育成する。</p> <p>（２） 教員養成の目標・計画</p> <p>多様化し複雑化する現代社会においては、社会一般ならびに各々の地域社会固有の地理、歴史、政治、経済、社会構造などに関する幅広い知識と、特定の社会問題に対してそれらの知識を駆使しながら、多角的視野から公正な判断を下しつつ諸問題の原因を考え抜くための事実に基づいた思考力や応用力が求められる。総合政策学科では、社会における問題の所在と本質を的確に把握し、現実に可能な解決策を立案できるための幅広い視野、豊富な知識と実践力を身につけた教員の育成を目指している。</p> <p>上述した教員養成の目標を実現するために、総合政策学科では次のような計画で教育を行う。第一に、共通教育科目を通じて一般教養の知識と思考力を涵養し、その上で文明論をカリキュラムの根幹に配置し、人間と社会の価値に関わる根本的な諸関係を学ぶ。第二に、文明論の学びを基礎に、国際政策・公共政策・環境政策の3つの分野に対応する形で社会科教員に必要な知識・技能を修得する。第三に、これらの多様な科目の中から、段階的に政策の基礎知識を総合的に学び、その上で応用的かつ発展的知識を修得する。第四に、教室で学んだ学問の知識やスキルを足がかりに、フィールドを学びの場とするプログラムを通して幅広い視野と実践力を身につける。</p> <p>（３） 授業科目・教育課程の編成実施（校種・免許教科別に記載）</p> <p>（ア） 中学校教諭一種免許（社会）</p> <p>社会科では、免許法施行規則に定める科目区分に基づき、「日本史及び外国史」、「地理学（地誌を含む）」、「法律学、政治学」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学」の領域について、それぞれ特色ある授業科目を設けている。まず、日本史及び外国史では、必修科目として「日本史概論」「文明史概論」を、選択科目として「近現代史」、「現代国家論」を配置する。「地理学（地誌を含む）」では、必修科目として「人文地理概説」、「自然地理概説」の他「地域と文明A」等、選択必修科目として「地域環境論」、「環境地理学」等、選択科目として「環境調査法」等の科目を配置する。「法律学、政治学」では、必修科目として「政治学概論」、選択科目として「行政学」等を配置する。「社会学、経済学」では、選択必修科目として「社会学概論」等、選択科目として「経済政策論」等を配置する。「哲学、倫理学、宗教学」では、必修科目として「哲学総論」、選択科目として「宗教と文明」等を配置する。</p> <p>これらの科目のうち、例えば「環境調査法」では、フィールドワークによる的確な1次データの収集法および分析法を学び、特に、地形、植生、水質などの自然環境特性、</p>	

および地域の経済活動、土地利用状況などの地理特性を的確に把握するために必要な調査法および分析法を修得する。

免許法施行規則に定める科目区分ごとに、2単位以上の必修科目または選択必修科目を指定し、選択科目と合せば、それぞれの区分において5科目から26科目が該当科目となるよう豊富な科目を配置する。また、教科指導法として、「社会・地歴科指導法A・B」「社会・公民科指導法A・B」を必修としている。

(イ) 高等学校教諭一種免許（公民）

公民では、免許法施行規則に定める科目区分に基づき、「法律学（国際法含む）、政治学（国際政治含む）」、「社会学、経済学（国際経済含む）」、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」の領域について、それぞれ特色ある授業科目を設けている。まず、法律学（国際法含む）、政治学（国政政治含む）では、必修科目として「政治学概論」、選択科目として「国際関係論」、「市民生活と法」等を配置する。社会学、経済学（国際経済含む）では、選択必修科目として「社会学概論」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」等を、選択科目として「財政学」、「国際経済学」等を配置する。哲学、倫理学、宗教学、心理学では、必修科目として「哲学総論」、選択科目として「宗教と文明」、「総合政策と倫理」等を配置する。

免許法施行規則に定める科目区分ごとに、2単位以上の必修科目または選択必修科目を指定し、選択科目と合せば、それぞれの区分において4科目から22科目が該当科目となるよう豊富な科目を配置する。また、教科指導法として、「社会・公民科指導法A・B」を必修としている。

(ウ) 高等学校教諭一種免許（地理歴史）

地理歴史では、免許法施行規則に定める科目区分に基づき、「日本史」、「外国史」、「人文地理学及び自然地理学」、「地誌」の領域について、それぞれ特色ある授業科目を設けている。まず、日本史では、必修科目として「日本史概論」を配置する。外国史では、必修科目として、「文明論概論」、選択科目として「近現代史」、「現代国家論」を配置する。人文地理学及び自然地理学では、必修科目として、「人文地理概説」、「自然地理概説」、選択必修として、「環境地理学」、「エコシステム論」等、選択科目として「環境調査法」等を配置する。地誌では、必修科目として、「地域と文明A（アジア）」、「地域と文明B（ヨーロッパ）」、「地域と文明C（アメリカ）」を配置する。

「エコシステム論」では、森林生態系の知識を修得しつつ、フィールドを学びの場とするプログラムを通じて、アクティブラーニングの視点から授業改善できる実践的な指導力を身に付ける。

免許法施行規則に定める科目区分ごとに、2単位以上の必修科目または選択必修科目を指定し、選択科目と合せば、それぞれの区分において1科目から9科目が該当科目となるよう豊富な科目を配置する。また、教科指導法として、「社会・地歴科指導法A・B」を必修としている。